

生活困窮世帯等学習支援事業の 取組について

福祉サービス部地域福祉課

学習支援事業の概要①

●目的

子どもの将来が生まれ育った環境によって閉ざされ、貧困が世代を超えて連鎖することを防ぐため、生活困窮世帯・生活保護世帯・ひとり親世帯等の中学生を対象に、学習する場を提供し、学習習慣を定着させ基礎的な学力向上を図るための指導や進学及び進路支援を行うことを目的とする。

●事業開始年度

平成26年度

●実施方法

業務委託にて実施

委託先:株式会社ヒューマン・タッチ

●対象者

①ひとり親世帯等の中学生(児童扶養手当を受給しているまたは同程度の所得)

②生活保護世帯の中学生

③生活困窮世帯の中学生(就学援助を認定された世帯)

●対象世帯への周知方法

①ひとり親世帯等

児童家庭課にて児童扶養手当を受給しているまたは同程度の所得である対象世帯に案内している。

②生活保護世帯

生活支援課にてケースワーカーが対象者のいる世帯に案内している。

③生活困窮世帯

就学援助の認定通知を市内中学校経由で配付する際に案内を添付している。

学習支援事業の概要②

●定員

300名

●事業実施会場

市内4会場6教室で実施。実施会場は非公表。

南部	火・金	18時～20時
東部A	月・木	18時～20時
東部B	水・土	水:18時～20時 土:17時～19時
西部	月・木	18時～20時
北部A	火・木	18時～20時
北部B	水・金	18時～20時

●事業実施形態

- ・2～3人の生徒に1人のインストラクターが学習指導を行う。
- ・教科は英語、数学、国語、理科、社会の5教科を対象とする。
- ・教材は、基本的に生徒が使用する教科書や問題集を使用する。

●高校生への支援

平成30年度より、過去に学習支援に参加し、高等学校等に進学した方を対象に、進学後の状況確認や面談を実施する。

※高校生には学習指導は実施しないが、席に余裕がある場合は、自習スペースとして利用してもらっている。

学習支援事業の変遷

世帯ごとの学習支援事業 業務担当課

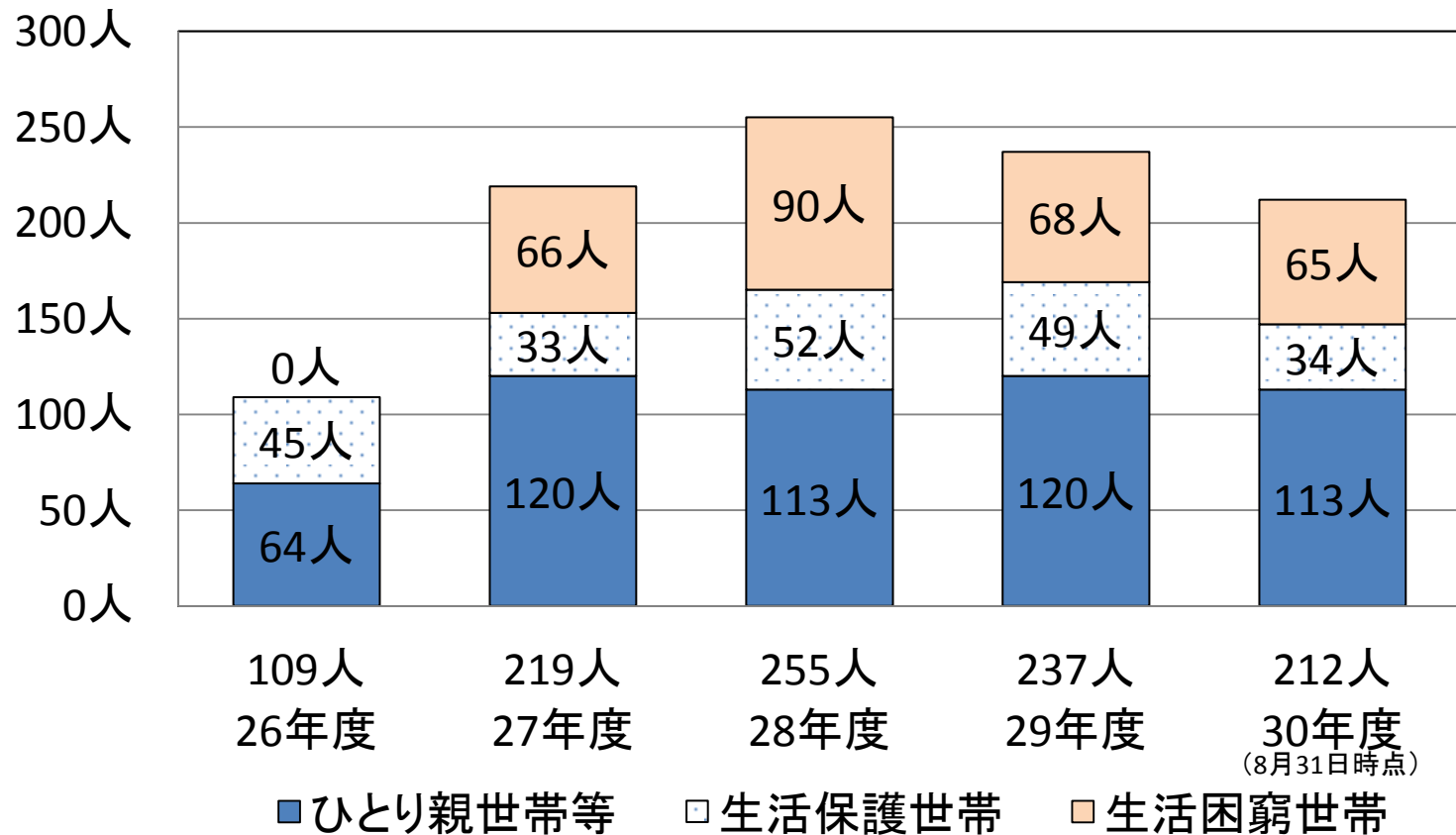
高校合格率は毎年100%
※平成26、27年度のひとり親
世帯等は未算出。

年度	ひとり親 世帯等	生活保護 世帯	生活困窮 世帯	会場数・教室数
平成26年度	児童家庭課	生活支援課	未実施	児童家庭課：1会場2教室 生活支援課：1会場2教室
平成27年度	児童家庭課	地域福祉課		児童家庭課：2会場3教室 地域福祉課：2会場2教室
平成28年度	地域福祉課			地域福祉課：4会場5教室
平成29年度	地域福祉課			地域福祉課：4会場6教室
平成30年度	地域福祉課			地域福祉課：4会場6教室

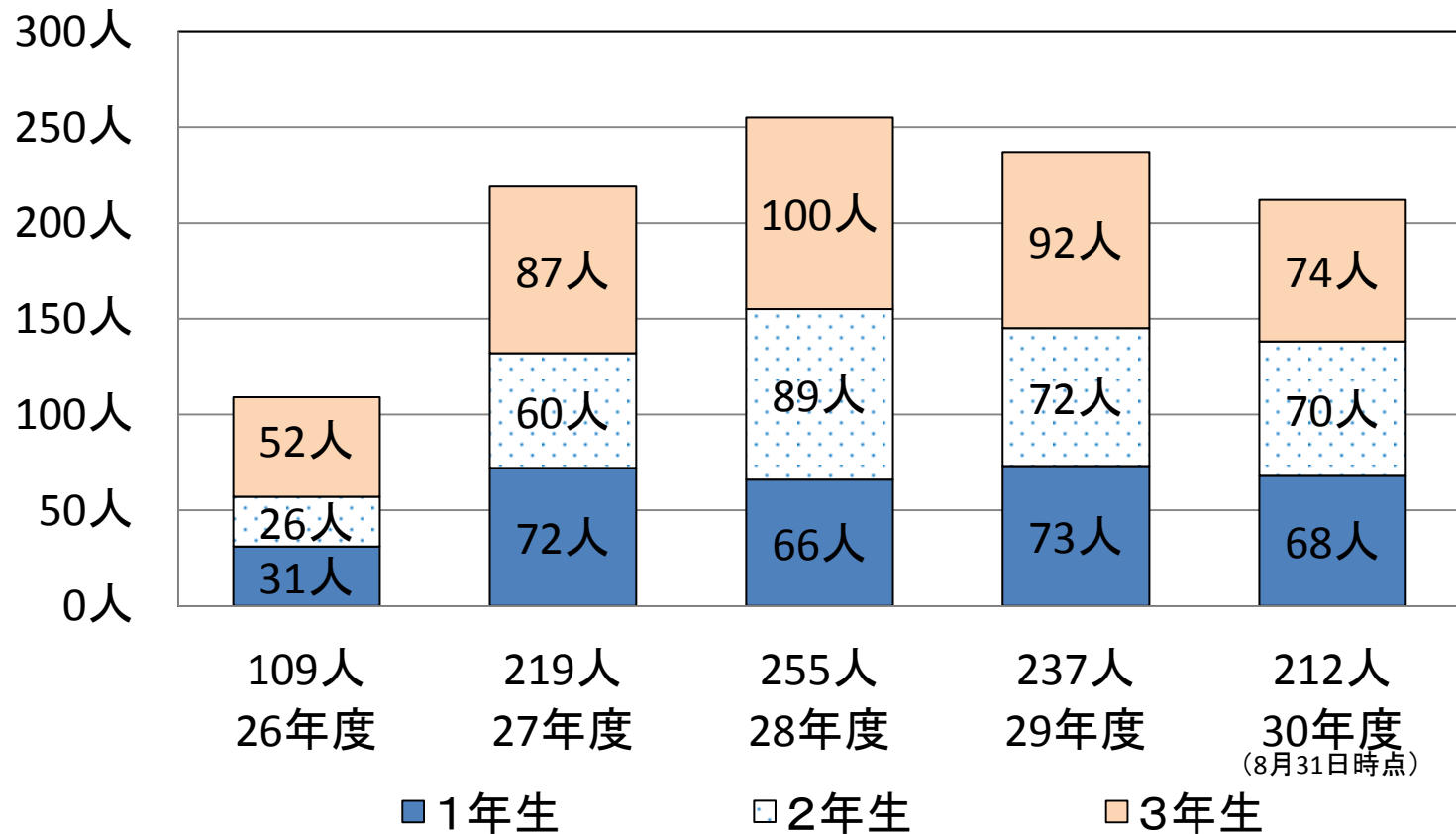
学習支援事業受託業者：株式会社ヒューマン・タッチ

※平成26年度から平成30年度まで全て同一業者が受託（単年度契約）

学習支援事業の参加者数（世帯別）



学習支援事業の参加者数（学年別）



平成29年度学習支援事業の参加者数

会場	学年	ひとり親	生活保護	生活困窮者	学年別合計
南部 火・金	1年生	8	3	2	13
	2年生	7	2	5	14
	3年生	8	9	5	22
	小 計	23	14	12	49
東部A 月・木	1年生	18	3	3	24
	2年生	10	0	5	15
	3年生	11	6	4	21
	小 計	39	9	12	60
東部B 水・土	1年生	2	3	3	8
	2年生	5	2	1	8
	3年生	11	5	7	23
	小 計	18	10	11	39
西部 月・木	1年生	3	4	6	13
	2年生	10	2	1	13
	3年生	5	0	8	13
	小 計	18	6	15	39
北部A 火・木	1年生	1	1	2	4
	2年生	3	2	1	6
	3年生	4	1	2	7
	小 計	8	4	5	17
北部B 水・金	1年生	4	2	5	11
	2年生	9	2	5	16
	3年生	1	2	3	6
	小 計	14	6	13	33
世帯別 合計	1年生	36	16	21	73
	2年生	44	10	18	72
	3年生	40	23	29	92
	合 計	120	49	68	237

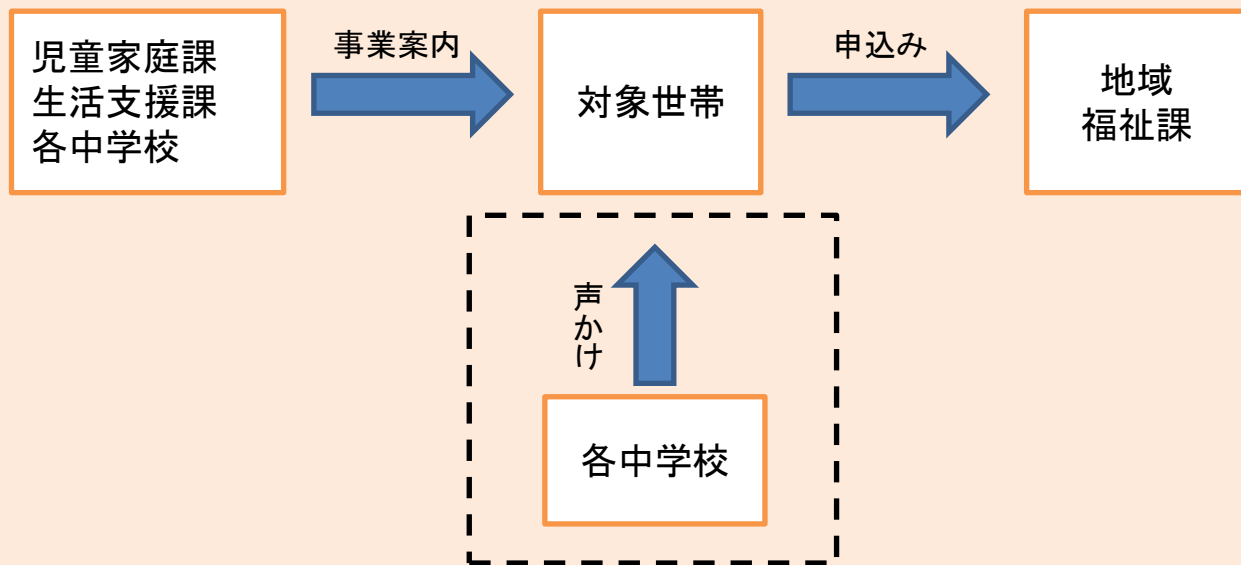
単位:人

今後の課題

●学習支援事業が必要と思われる生徒への声かけについて

学習支援事業の案内は対象世帯に案内書類を配付しているが、参加するか否かは保護者次第であり、案内に目を通しているかも不明なため、学習支援が必要と思われる対象生徒への更なる周知について検討中。

例えば・・・



●学校・スクールソーシャルワーカーとの連携について

学習支援事業参加者の中には学習以外に問題を抱える生徒がおり、学習支援事業の教室での聞き取りでは生徒情報が十分でない。生徒に寄り添った支援をしていくため、学校と情報共有をできないか検討中。